ジョージ・ルーカス監督が認めたプラモデルメーカー、世界中と取引する「春巻成形機を開発した会社」など様々な"技"を持つ企業が登場。「トップシェアの技術」「それ無しでは製品が成り立たない技術」など知られざる"技あり企業"を探して取材班が全国を飛び回り、その底力を描きます。03年から続くWBSの長寿コーナーです。<月曜放送>※都合により変更の場合があります。

第216回　毛髪を逃がさない！／サンロード(奈良・橿原市)

2009.11.30

1枚数円からある商品で、300円近い高価格ながら驚異的な人気を誇る商品がある。それは食品工場などで使われる衛生キャップ。髪の毛が外に出ないよう、しっかりフィットすることが大事だが、それ以上に欠かせないポイントがあるという。それは...

サンロード・高見敏明社長
「フィット感以上に、毛髪を落とさないというのが一番大きなポイントでしょうね」

大小数多くの古墳が点在する奈良県橿原市。ここに、衛生キャップの分野でトップを走るサンロードがある。
衛生キャップの製造過程はいたってシンプル。まず素材となる生地を裁断し、型に合わせて切り抜きが行われる。切り抜かれたパーツは順番に縫い合わされ、1枚の生地が立体的な帽子の形に変わり完成する。

サンロード・高見敏明社長
「一日だいたい2000枚から3000枚ぐらいですね。お買い上げになるユーザーは、工場数にして約1万社」

一見、何のへんてつも無いこの帽子。
それでも多くの工場で使われるのは、なぜなのか？

サンロード・高見敏明社長
「生地の中に電気が入っています。その電気の作用で毛髪を吸着して、落とさないようになるわけです」

帽子の中に電気がある？
試しに、髪の毛を何本か入れてみる。すると...

サンロード・高見敏明社長
「逆さにしても落ちませんし、毛髪が表面にくっついた状態で離れない」

別の実験をしてみる。ガラスに近づけると、吸い付くように張り付く生地。普通の布と比べると、その違いは一目瞭然だ。

なぜ帽子が電気を帯びるのか？
それを実現する機械がある。中をのぞくと、そこにはコタツで使うような熱源と放電を起こすための数本の端子･･･。

サンロード・高見敏明社長
「スイッチが入った時点で高い電圧の電気を放出している。その電界の中に合成繊維を置くことで、繊維がプラスとマイナスの電荷に分極をする」

元々、繊維にはプラスとマイナスの電気がバラバラな状態で存在している。そこに一定の電圧を加えると、繊維の中の電気がひとつの方向に並ぶ。こうした繊維が何本も積み重なることで、髪の毛を吸着するほどの電気力を生む。

ここに技あり！
ある一定の温度、電圧を加えることによって、
帽子の生地を半永久的に"電気を帯びた"状態に変える。

その結果、抜けた髪の毛でも決して逃がさない究極の帽子を作り上げた。6年前にはついに中国に自社工場を構えたサンロード。次に狙うのは、これから衛生意識の高まりが期待できる中国だ。

サンロード・高見敏明社長
「中国の衛生レベルは段々に加速度が増して、日本の衛生管理基準に近づいてこようかなと思います。その時はぜひ我々の努力で、市場を作っていけたらいい。」

TOPに戻る

- 第216回　毛髪を逃がさない！／サンロード(奈良・橿原市) (2009.11.30)
- 第215回　風船のような金属／一村製作所(山口・下関市) (2009.11.23)
- 第214回　土鍋に磁力を！／ミヤオカンパニーリミテド(三重・四日市市) (2009.11.16)
- 第213回　凸凹と圧力で密着／苗加製作所(富山・高岡市) (2009.11.02)

- 2009年12月
- 2009年11月
- 2009年10月
- 2009年9月
- 2009年8月

- 2010年
- 2009年